

## 《薬局サーベイランスコメント》

『インフルエンザの流行は本格化した、更に患者数は増加するものと予想される』

2016年1月26日  
済生会中津病院感染管理室  
安井 良則

### 薬 局 サ ー ベ イ ラ ン ス

(<http://prescription.orca.med.or.jp/syndromic/kanjyasuikei/index.html>) からの 2016 年第 3 週 (1 月 18 日～24 日) のインフルエンザの推定患者数は 3 週連続で増加し、また前週 (第 2 週) の値 (148,844) の 2 倍以上の 351,423 となりました (図 1)。さらに、第 4 週 (1 月 25 日～31 日) の月曜日 (1 月 25 日) の推定患者数は 127,275 と今シーズンの最高値の 2 倍近い値となっており、インフルエンザの流行は本格的なものとなっています。各都道府県別の第 3 週の人口 1 万人当たりの 1 週間の推定受診者数をみると、新潟県、北海道、青森県、岐阜県、沖縄県、茨城県、長野県、広島県、栃木県、東京都、神奈川県、秋田県の順となっており、関東地方の大半で全国平均値を超えています。また、47 都道府県全てで前週よりも増加が見られています。

2015 年第 36 週から 2016 年第 3 週までの累積の推定患者数は、716,910 (717,000) であり、年齢群別では 5～9 歳 (17.9%)、30～39 歳 (14.2%)、40～49 歳 (14.1%)、0～4 歳 (10.6%)、10～14 歳 (9.9%)、20～29 歳 (9.6%)、50～59 歳 (8.4%)、15～19 歳 (6.4%) の順となっています。特に 5～9 歳の年齢群の推定患者数は 79,554 (第 3 週全体の 22.6%) と前週の値 (22,189) よりも急増しており、冬季休暇終了によって同年齢群が流行の中心となっています (図 2)。

国立感染症研究所感染症疫学センターの病原微生物情報 (<https://nesid3g.mhlw.go.jp/Byogentai/Pdf/data2j.pdf>) によると、これまでのインフルエンザ患者由来検体から検出されたインフルエンザウイルス (442 検体解析) は、A/H1pdm 41.6%、A/H3 (A 香港) 亜型 33.3%、B 型 25.1% の順であり、特に A/H1pdm は 2016 年に入って急増し、最多となっています (図 3)。

2015/2016 シーズンのインフルエンザの推定患者数は 1 月に入って急増し、第 4 週に入って本格的な流行となっています。一方、インフルエンザの患者数はさらに増加するものと予想されますので、その予防対策には十分な注意が必要です。今後ともインフルエンザの患者数の推移には注意深い観察が必要です。

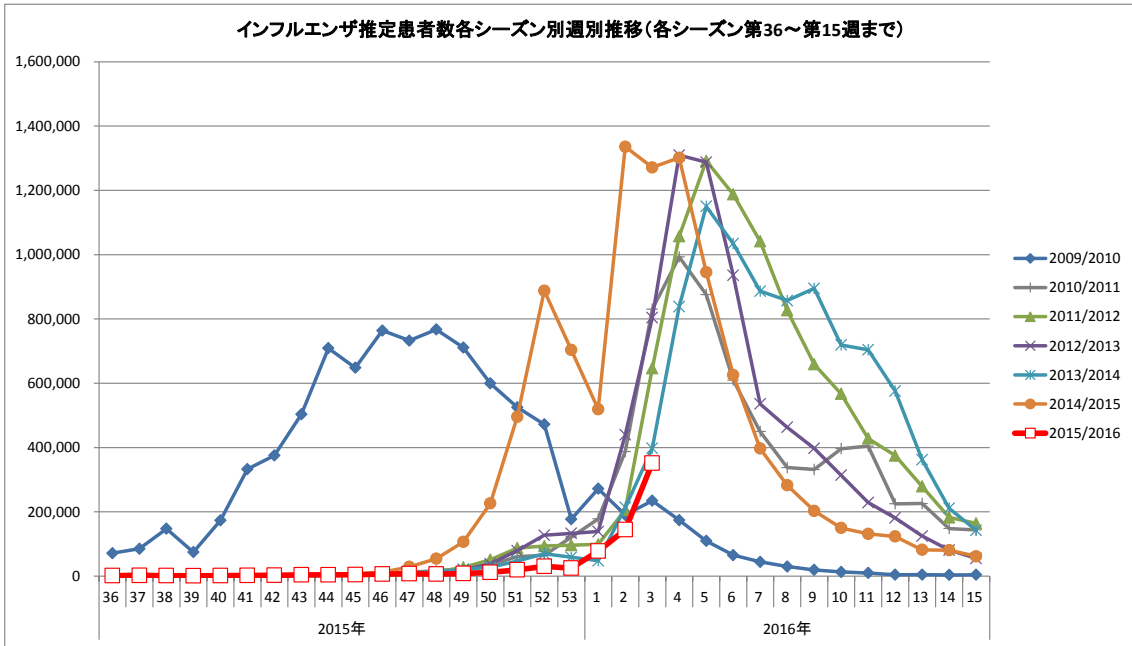


図 1. 過去 5 シーズンと今シーズン（2015/2016 シーズン）の第 36～第 15 週までのインフルエンザ推定患者数の週別推移

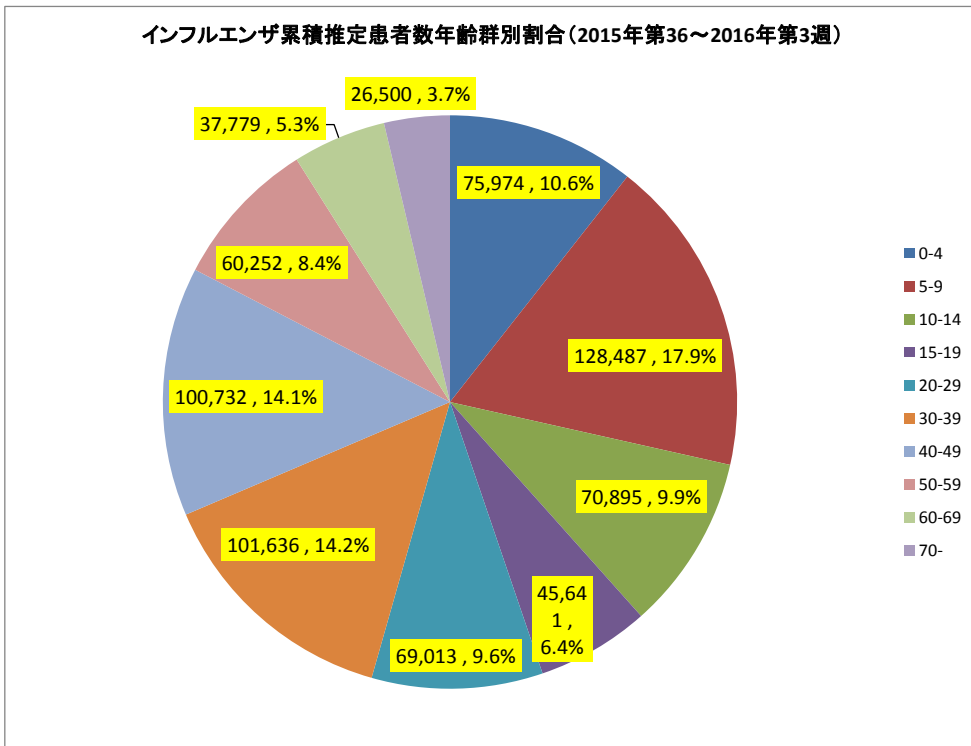


図 2. インフルエンザ累積推定患者数年齢群別割合（2015 年第 36～2016 年第 3 週、累積推定患者数=717,000）

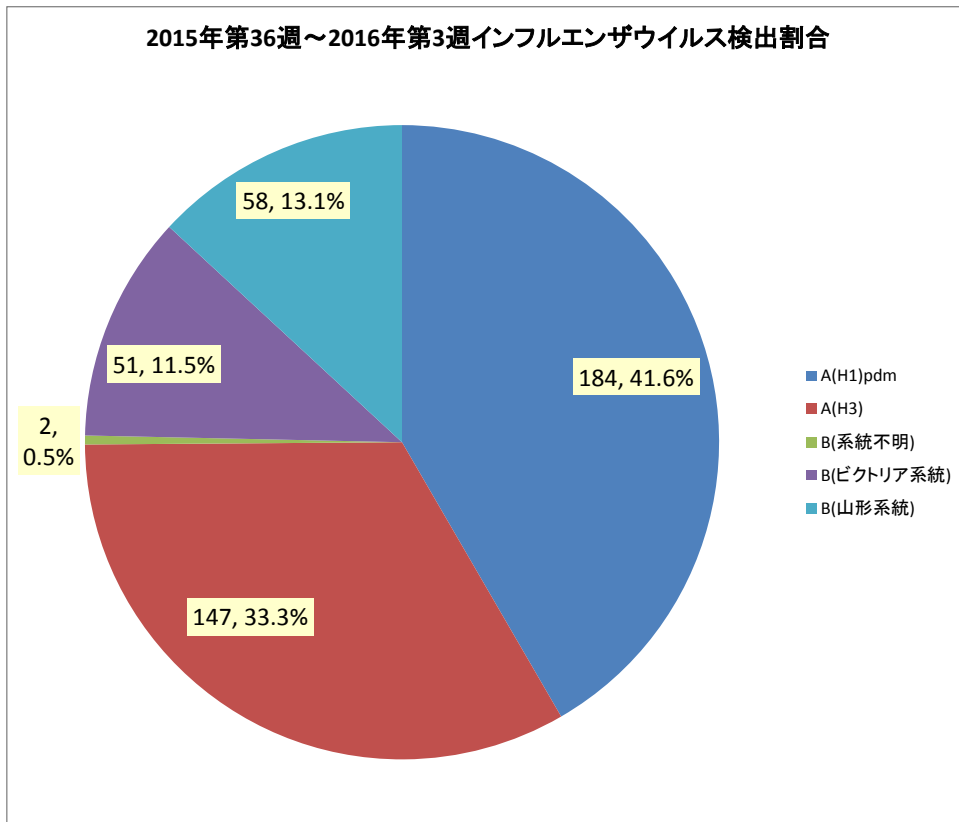


図 3. 2015 年第 36～2016 年第 2 週インフルエンザウイルス検出割合（総検出数=442）